

114
A 952

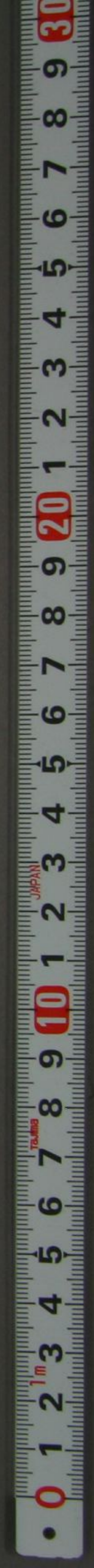
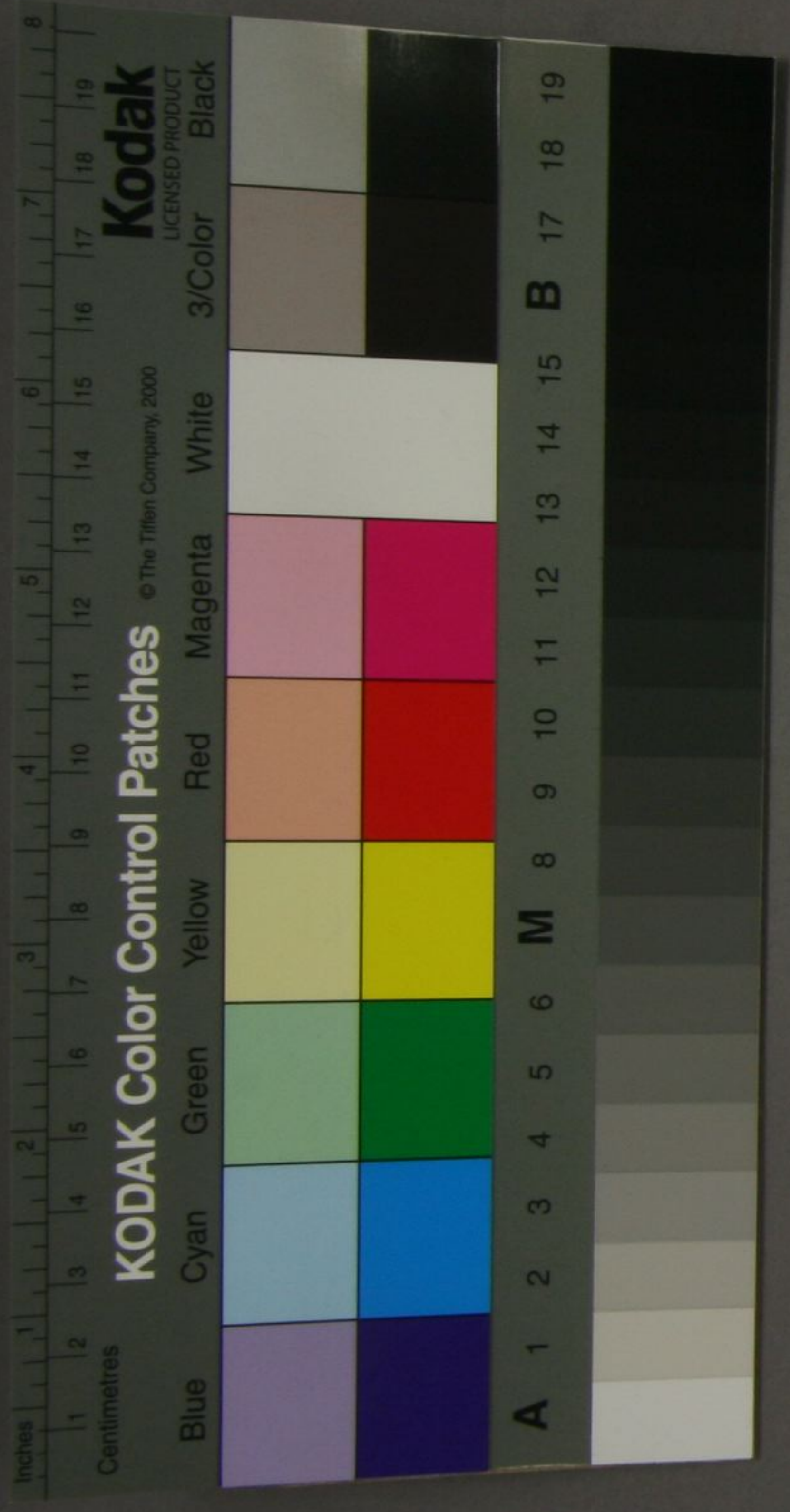


條約撤棄

此頃貴社新聞紙と轉録セラタルペンリノルマン氏ノ條
約改正ヲ論スル書信申其方案ヲ指示スルヲ見タリ蓋
シ此方案ヲ行フテ始メテ改正ヲ實施スルヲ得レトハ氏
ノ自信スル所ニシテ是ト斯ノ如キノ論世ニ出テザルハ我輩
ノ常ニ驚ク所ノモノナリ此方案トハ定期ノ後ニ於テ現行
條約結局ニ至ルヘキヲ日本ヨリ各締結國ニ告グスルコト
ルノミニ顧フコト日本ハ斯クノ如キノ處至ニ出ツレノ權理ヲ
有スルコト固シ疑惑ヲ容ルモノアラサルヲ若シ此事コレ
テ果シテ實行シ得ヘクハ日本國ハ素ヨリ喜ニテ此處至ニ
出ツルヲ欲スルモノナルニ亦々海ヲ俟タカ人所ナリ然レモ
何が故ニ此處置ニシテ實行シ得ヘカサルカ蓋シ此處置ハ大膽不
敵ノ處置ナリト云フベレモ之ヲ行フタルカ為メニ生スルニ危険

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄

1911



に至りては決して重大ナルモノアリト云フヘカラス其故何ソヤ兵ハ
素ト凶器ニシテ戦ハ重キ事ナリ何レノ國民モ日本現行條約ヲ
持續セント欲シテ俄ニ兵馬ノ間ニ日本國ト相見ント企図スル
モノアラシヤ然レ凡人或ハ謂フ日本現行條約ハ當初兵力ニ
依リテ之ヲ得タリト是レ誠ニ然リ然レモ當時ト今日ト情況
ノ相熟湯スル實ニ天淵霄壤ノミアラズ當時各國ハ得
ント欲シタハ目的ハ世界ノ交通ニ日本ヲ閉キ鎖國ノ弊習ヲ
破ラントスルニ外ナラザリレガ此目的ハ今日既ニ永世不枯ニ
各國ノ得有スル所トナリタリ試ニ思フ今日日本ガ現行條約
ヲ明日ヨリ廢棄スルトセンニ目ト之レガ為メニ或ハ有年
前鎖國ノ有様ニ去テ戻リタリト云フヲ得ヘキ欲決シテ然
ルニアラサルヘシ然レモ若シ因一ノ目的ヲ達セントスルニカ
テモ開港當年ノ日本即チ近時改良ノ兵法戰術一

モ其有スル所ニアラザル昔時ノ日本ヲ威迫スルト今日ノ日
本ヲ威迫スルトハ素ト同日ノ論ニアラス且又當時日本
ヲ開國スルニ世界ノ論ノ是レ認セテ所シテ此ニ論ハ四ニ
今日日本ヲシテ其現行半奴隸ノ有様ニ沈淪シテ永ク
救済ノ法ヲ得サラシムルノ不法不正ナルヲ非トスルニナリ
私利專横ノ見解ハ暫ク之ヲ擲キ而シテ締盟各國ハ此世
界ニ論ノ向背スル所ヲ知リナガラ遠ニ兵ヲ起シテ東洋ノ極東
ニ日本ト相見ントスルハ我輩ノ決シテ信スル能ハザル所ナリ然ラ
ハ則チ此際日本ハ大膽ニ其地步ヲ固クシテ千折不撓ノ
氣力ヲ以テ事ニ處スルアムヲ要スルニ日本ハ其國力ヲ
全ク盡シテ此地歩ヲ維持セント欲スル志ヲ有レ且其欲
スル所ヲ得ントスルニ一彈丸ヲ發セテ一硝藥ヲ費サザルヲ
希望スル者ナラザラレムヲ要スルニ日本既ニ此決

を了り此布にありてノルマシガ捕まへル妙ク強大國ノ數
者ガ之ニ同意ヲ表スルコト肯シトセバ則チ日本ノ地歩
識之輩固不拔ナリ得ヘキナリ

然レモ今此處ニ至リテハ危險ニ迫ルモノト假定スルモ即
チ英國ノ如キハ其日本ニ於ケル貿易ニ今リテ高キ關
稅ヲ課セラルコト拒コシカ爲メニ戦フコトアリト仮定スルモ
本案ニ關スル問題ヲ両方シ易キ者ヲ先ニテ難キ者
ヲ後ニスルコト行フハ故ニ何等ノ支ヲ生スルコトアリヤ
尚ホ之ヲ詳言スレバ最初ニ本案ノ要點ヲ治外法權
撤去ノ一問題トナスコト行フハ素ヨリ何等ノ支ヲ生スル
コトアリハキ理ナシ而シテ此要點ハ日本ノ爲メニ至重至大
ノ關係ヲ有スル者ナレドモ之レニ反シテ締結各國ノ爲メ
ニ至重至小強シト何等ノ關係ナキモノナリ或ハ此國ニ

在田客生スル外國人ノ一ト社会中ニ此問題ヲ誤視シテ以テ
重大ノモノトナス者モアリトモ此世界各國何レノ國
モ日本改メテ欲シキ裁量ヲ持テスルガ爲メニ兵力ヲ用フコト
是認シ國權之レガ爲メニ奮起スルモノアリ其振舞自
ラ奮起スル者ナキニテアラズ干渉萬説シテ之ヲ奮起セシ
ムルヲ得ル所アリトスル以テ彼ノ輕躁浮薄ニテ誇張ニ信
憑ナキモノハ輕ク之ヲ論セス苟モ其言フ所ニ價値アリ
モノニシテ當テ日本以外法權持テノ爲メニ兵力ヲ
用フモノ設ク敢言ラ設スルヲ得ルモノアリトハ我輩ノ
竊ニ疑フ所ナリ何トシハ日本ガ某月某日ヨリ治外法權
ニ關スル條約ノ條項ヲ撤棄スルコト決定シ各國ニ告示スル
ガ爲メニ危險ナル葛藤ヲ生スルコト云ハルコト外交上至
大ナル處至ハサ事ノ如何ニ同ク必ス危險ナル葛藤

如務備

ト

ヲ生スレト云ハルト同一ナレハナリ

今日日本ハ新然キ處ニ出ツルトセシキガ為ニ奧國ノ
支條上何等ノ地位ヲ乞フルヲ欲スルハ新言ス
必スヤ同等ノ地位ヲ享有スルヲ求ムルハ亦々疑ヲ容んぶ
テス而シテ一々ビ治外法權ノ撤棄ニヨリ此同等權ヲ是認セラ
ルハ後數年ノ経過スルヲ俟テテ靜ニ開議主義ノ權權
ヲ收握スル素ヲ展支ア入りテ日本國內ニ住スル外國人ハ
皆々其法權ニ服從シテ教子情モモナキ以上ハ此權權ニヨ
リテ稅權ヲ得ルニ誠ニ自然ノ結果ニシテ且ツ海陸ニ人々
ルモノナンヲ以テ剛愎辯ヲ好ム人ト余氏能ク此事ニ向テ
攻撃ヲ試クテヲ難シトスレテ斯クノ如クニシテ終ニ外人ノ日
本國事ニ干渉スルノ契機ヲ撰取レテ其痕跡ヲ殘
ワレメサルニ至ルハキナリ

以上論スル所ハ内情ヲおハシ得サル無關係者ノ見ル所ニ
故ニ外交探密ノ經典ニ是レ者ニシテ其所見ノ自ラ
異ラサルヲ得サルニ素ヲ得テ俟タザンナリ然レニ奧國
高ニ劣リテ責任ヲ有スル政事家ノ是照ニ供スルキ
モノニシテハ奧國ノ輿論ニシテ確實ナリニ實ニ政事家
輔翼スルノ効アルモノナレハ此案ヲ以テ今ツ誇壇ニ出
シテ寰球ノ向背ヲ察スルニ誠ニ事ヲ害ナキモノト信ヤサ
ルヲ得ス其學ヲ我輩ノ以テテ之ヲ考テ其案スルハ亦
々甚喜シキ微意ニ出スルニ

千一、エス、千ニガ、敬具再拜

千八百九十九年一月四日於大阪

投書レヤハンメール記者 只下

我輩者ニ主張スル所ノ處至ニ本報上既ニ論議シタリ

ガタリ然レモ此處を以テ他ノ方法ニシテ略々其効ヲ奏セザルトキ
ニ於テ此ノ法ヲ用ルルニシテ日本ノ素ヲ用ルル者ハ其
ノキトモナリ此處をノルニ危殆^{ハル}ハ^ルト云ハルニ余
等チシテ氏ト設ヨ回フス。ト云ハルニメー^ル江若記ス

